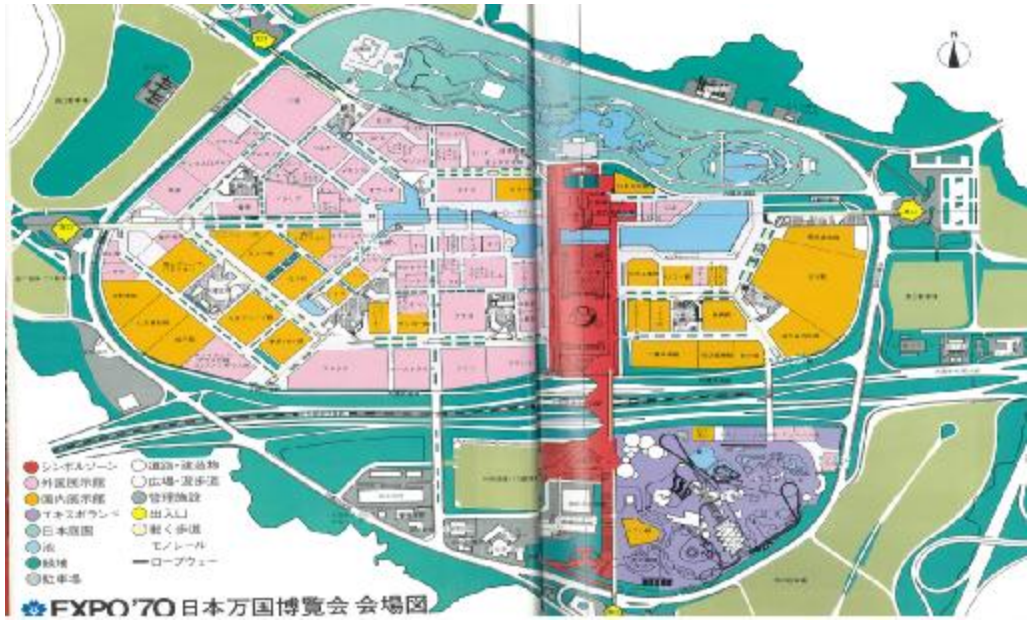
資料　3

過去の国際博覧会の会場概要

1970年日本万国博覧会　位置図

○ 万博会場へのアクセス
- 大阪市中心部から地下鉄・モノレールで約40分
- 大阪国際空港からタクシーで約20分

1970年日本万国博覧会　会場図



日本万国博覧会　概要
◆開催地
大阪府吹田市
◆会期
1970年3月15日～9月13日
◆会場面積
330ha
◆来場者
6,422万人
◆参加国等
約80の国、地域、国際機関

〇京都、大阪、神戸の大都市にも近く、東京など東からと中国方面など西からとを道路で結合する地点。また、不利な自然条件のため、ほとんど未開発であり、会場が一つにまとまることと、新しい土地の上で自由な計画・設計ができる点で有利。
（日本万国博覧会公式記録より）

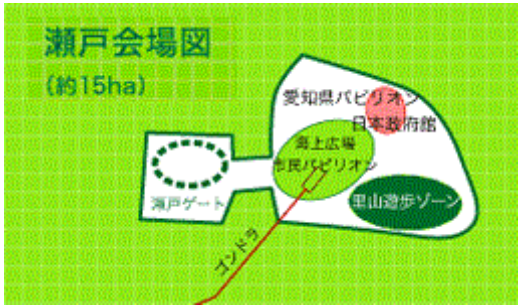
〇1963～69年に住宅都市である吹田が建設され、大阪の過密問題緩和のため、都市近郊への移動手段を確保し、自然と居住区域を維持した。また、新御堂筋や地下鉄が都市部と万博会場を結び、新しい交通コンピューターシステムが導入された。
（BIE公式サイト（日本万国博覧会に関するページ）より）

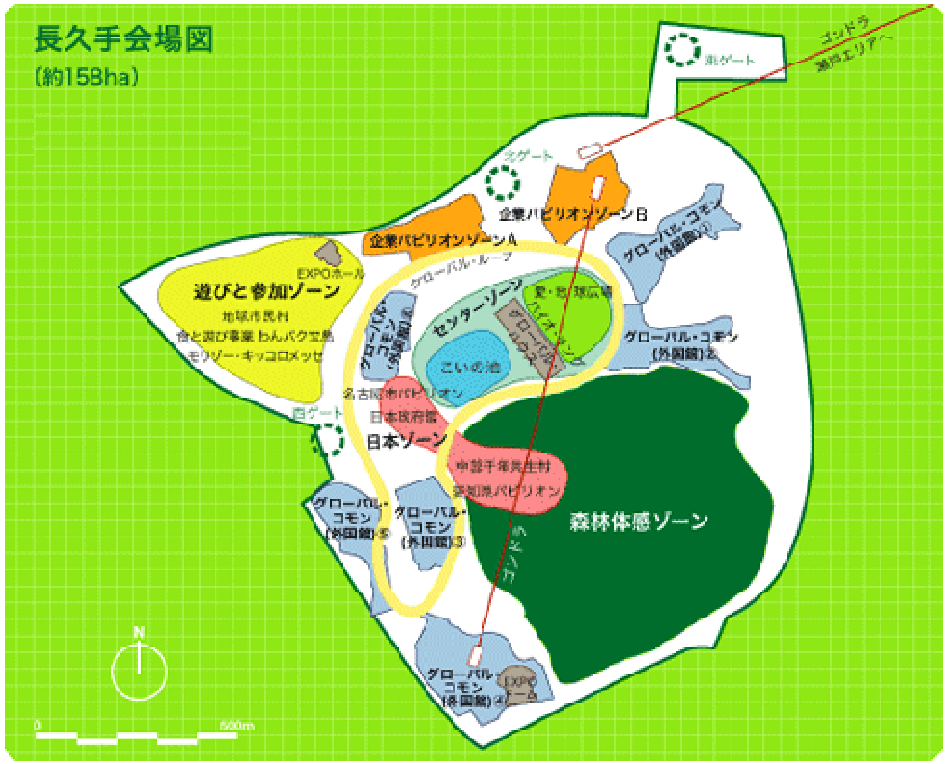
2005年日本国際博覧会（愛・地球博） 位置図

○ 万博会場へのアクセス
- 名古屋駅から地下鉄、リニモ利用で約40分
- 中部国際空港から鉄道利用で約60分
- マイカーによるアクセスは、名古屋空港他5カ所の駐車場でパーク＆ライド方式を採用

2005年日本国際博覧会（愛・地球博） 会場図

○ 会場周辺地域である愛知・東部丘陵地域は、産業文化観光資源が豊富にあり、名古屋市を拠点として日本の産業文化観光を担う地域として期待されている。
○海上地区は、一体の森林が古くから過度に伐採されたが、自然環境が回復しつつある。
○青少年公園地区は、複雑な地形を巧みに活用したスポーツ交流施設、児童遊園施設、自然との交遊ゾーンとして利活用。
○会場整備にあたっては、緑地や地盤への影響を最小限に止めつつ、所用の施設配置及び動線を確保する。（2001年12月　基本計画より）





愛・地球博　概要

◆開催地
愛知東部丘陵(長久手市、瀬戸市)
◆会期
2005年3月25日～9月25日
◆会場面積
１７３ha(158ha＋15ha)
◆来場者
約2,204万人
◆参加国等
約125の国、国際機関

2010年上海国際博覧会　位置図

○ 万博会場へのアクセス
- 上海中心部から地下鉄で約40分
- 虹橋国際空港から地下鉄で約70分
- 浦東国際空港からリニア・地下鉄利用で約50分

2010年上海国際博覧会　会場図

上海博概要
◆開催地
中華人民共和国上海市
◆会期
2010年5月1日～10月31日
◆会場面積
328ha
◆来場者
7,309万人
◆参加国等
約190の国、地域、国際機関

○ 跡地利用計画

閉幕後、「国際貿易機能」と「国際交流機能」をもつ、上海市の新しいシンボル的な中心地として再開発される。

特徴ある建築物および大型パビリオン施設の一部は恒久施設として建設され、上海万博終了後も再開発エリアの拠点施設として活用される。

（上海国際博覧会概要（2008年2月）
日本貿易振興機構（ジェトロ）上海博覧会チームより）

2015年ミラノ国際博覧会　位置図

○ 万博会場へのアクセス
- ミラノ中心部から地下鉄で約30分
- マルペンサ国際空港からタクシー利用で約30分

2015年ミラノ国際博覧会　会場図

会場全体図

ミラノ国際博覧会　概要
◆開催地
イタリア共和国ミラノ市郊外
◆会期
2015年5月1日～10月31日
◆会場面積
１１０ha
◆来場者
2,150万人
◆参加国等
約140の国、地域、国際機関

○ 重要なイベントの開催地としてミラノが選ばれた理由には、ヨーロッパの中心に位置し、ロンバルディア州の州都としての地理的有利さ、効率的なインフラ整備、サービスの充足度、イタリアの実行委員会によって練られたプロジェクト・プランの質、そしてまた世界的レベルの都市としての知名度などがある。
（イタリア政府観光局（ENIT）公式サイト（2014.1.1付）より）